

枕草子 第十六回

山には

山には、おぐら山とか、鹿背山かせとか、このくれ山とか、いりたちの山とか、わすれずの山とか、末の松山などと、昔のお歌に歌われていたりもする山もあるけれど、とにかく、いろんな名前がついていて面白い。

かたさり山なんて、言葉の意味からいえば、遠慮する山ということになるけれど、山が道を譲ったりするはずもないので、この山を登る時には、道を譲りあったりするのかしら、などと、いろんなことを考えたりして、とっても面白い。

ほかにも、いつはた山とか、かえる山とか、後背山とかいろいろあって、あさくら山なんて、昔の人のことなんてもう知らないわ、という有名なお歌に歌われていたりして、そんなことを思い出すのも面白いし、おおつれ山なんていうのも、臨時りんじのお祭りの時のおおぜいの舞人まいびとなんかを思い出したりして面白い。

三輪山みわも、手向山たむけも、待ちかね山も、たまさか山も、耳なし山も、みんなみんな面白い。